

さ ざ ん か

第75号、2008年1月

明けましておめでとうございます。今年も広報誌「さざんか」をよろしく願いいたします。

今年オリンピックイヤーです。4年に1回めぐって来るオリンピック。子供の時の東京オリンピックは鮮烈でしたが、大人になっていくつものオリンピックを経験すると一つ一つの感動が薄れてくるのはまあ仕方のないところでしょう。ちなみに東京以降は、メキシコ、ミュンヘン、モントリオール、モスクワ、ロサンゼルス、ソウル、バルセロナ、アトランタ、シドニーの順になっています。10回開催するのには40年の歳月が必要です。

今年の北京の次はロンドン開催が決まっています。ああ、そのとき、私たちはどこで何をしているのでしょうか。

ところで、みなさまよいお正月をお過ごしでしたでしょうか。一人ひとりが病気にしながらも(?)元気で今年いっぱい過ごせることを願っております。老化は病気ではありません。むしろ生命の有り様からすると健全な証拠ですので、老化と病気を取り違えずに元気でいきましょう。病気をされている方は、病気に負けず、あるいは病気となかよくしながら、或いは病気とけんかしながら(そのカタチは人それぞれ。気の弱い人、気が強い人、負けず嫌いの人それぞれの闘病記がありそうです。)生きていることを感謝しながら生きていくことを楽しめたらいい1年になるのではないのでしょうか。とりあえず、今年も皆様とお付き合い出来ることを感謝しております。どうぞよろしくお願いいたします。

俳句

西屋敷喜美子

人の減る 村の灯いくつ 北の風

雲浮かぶ 霧島山や 冬耕す

さざれ石 箒の跡の 小正月

病院からのお知らせ

- * 外来の採血開始時間は午前8時開始になっております。朝食抜きの採血があるときは早めに来院して採血をすませ、診察時間が来るまでゆっくりと朝食を取っていただけると思います。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。
骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。
- * MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。
- * MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * マルチスライスCTで、心臓冠動脈造影もできます。心臓カテーテル検査の代わりにもなることもあります。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、といいます。MR血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。
- * 一階売店近くのロビーに「創作ひばり会」の盆栽が展示してあります。日本人の粋を代表する芸術ですのでゆっくり「盆栽ワールド」をご堪能下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- * 北薩病院のホームページにもこの「さざんか」は掲載しております。ホームページを見ていただくことで、遠方在住の家族の方に、自分の親や兄弟、姉妹がかかっている病院のことを少しでも知っていただければよいなと思います。

新年のご挨拶

院長 高橋浩一

明けましておめでとうございます。良いお正月をお過ごしだったことと存じます。年頭にあたり、ひと言ご挨拶申し上げさせていただきます。

昨今の厳しい医療情勢は、患者さんにも我々医療者側にも多くの困難をもたらしております。平均在院日数の短縮が求められ、当院のような急性期病院では、ゆっくり療養する環境は得られなくなってきました。病状が安定すれば療養型病院へ転院していただかなければならなくなっております。国の政策に則っていかないと経営が上手くいかないような仕組みになっておりますので、一部の患者さんには、不本意ながらご迷惑をおかけしてお

ります。

幸いに当地では都会におけるような救急車のたらい回しは起こっておりませんが、現在の救急医療を実践し確保していくためにはそれに見合った医師の数の確保が必要です。しかし、昨今の勤務医師不足の中ではそれもままならない状況です。現在勤務している個々の医師にかかる負担は大きくなるばかりです。できるだけ多くの医師に当院で勤務してもらいたいと思っても来てくれる医師がいません。人手不足の中、当直で一睡もできなくても翌日は通常の勤務を強いられているのが現状です。疲弊した勤務医師が病院に別れを告げて開業医へ転進するというのが昨今の大きな医療界の流れとなっております。

また、日々進歩する医療技術を学び獲得するのも相応の努力が求められており、地方でも都会と同様の高レベルの医療を提供するのが我々の使命の一つだと思っております。地域の中核病院として、救急医療も高度の専門医療の提供も必要ですし、そのためには或る程度の犠牲を覚悟で当院の医師はそれをなすとげるべく日夜努力をしております。

治療するほうも、治療を受けるほうも満足すべき状態にはまだまだ程遠い現状ではありますが、少しでも良い医療の提供を目指して医師を先頭に職員一同頑張っていく所存でございますが、そのためには皆様のご協力、ご理解（軽症での夜間受診やコンビニ感覚での受診の自粛など）も欠かせません。良い医療は治療する側、治療を受ける側の信頼と協力がなければ得ることは出来ません。いろいろとご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

■■■■ ちょっとした親不孝も親孝行だ ■■■■ 宮園 辰夫

高齢化社会なんて言われて、これから益々お年寄りが増えて行くわけだ。そうなると、当然、ただ長生きすりゃいいってもんじゃなくなってくる。健康で頭もボケずに、長生きしなければ意味がないし、平均寿命がのびているからといって、ただ喜んでばかりはられない。これはお年寄りにとっても、若い人にとっても大変なことなんです。ますます長くなっていく老後の生活。それにどう対応したらいいかっていうことになると、まず第一にお年寄りをかまっておけるってことだ。

先生方がお年寄りとしやべっているのも、かまうことの一つのカタチだし、あれはあれでお年寄りにとっても、ストレスの発散になっていると思う。家庭の中では、お年寄りも役割を持つっていうか、お年寄りも役に立っているんだという気持ちにさせてあげなきゃ

いけない。それが「かまってあげる」っていうことなんだ。具体的に言うなら、お年寄りにも仕事をさせるとか、いろんな話を聞くとか、ちょっとした親不孝をして、自分がまだ必要とされているんだってことをわからせてあげれば、それが薬にもなるし、本人の喜びにもなるんだ。

親不孝といっても、本当の親不孝じゃないし、いいかえれば頭のいい親不孝なんだ。親不孝をしているという自覚を持てるくらいの計算された親不孝で、ちょっと心配させ刺激するくらいのもんだったらいいと思う。ほんとの親不孝じゃ、親の方は思い余って、この世からオサラバってことになったら大変。親に対する深い理解がなくてはいけないし、子供のほうがクレバーじゃないとできない。

仕事をするってことは、別に社会的に立派な仕事じゃなくて、本人がやれること、やりたいことだったら何でもいいと思う。お年寄りだからこそ、出来る仕事、お年寄りだからこそ気がつく仕事、色々考えればたくさんある。大切なのは年寄りが何らかのかたちで社会参加できたら嬉しく喜べる筈である。役割を持たせることも子供の務め、また年寄りと言うけれども伊達に年寄りになった訳ぢやない。それには色々あるが、それ以上の事はみな分かっているから敢へて言わない。

短歌

腰痛みて日々に心を閉ざす妻 夜更けにもらすつづやき聞こゆ

区切られし田に群れながらおもむろに移動する鶴 波のごとし

さつま狂句

のんなこ 本当で胃が痛さいとなった面接試験

選えらって買かった籤くじが当たあたらにや選えらった馬うま簾すだ

「あったのに」 時吉 政枝

おのずから歩みをとめて聞くものか すすきの中の冬川音

秋は車イスとともに家から坂道を下り体調が良かった頃。面白く手袋をつけてする一する一と下る頃は楽しい日々が「あったのに」。今は、車イスで田んぼのあぜ道を心ゆくまでどこまでも車イスを回し乍らの日も「あったのに」。平成の時代はコンクリートでどこまでも行ける。そして春は桜の花びらが風に舞って寒いけれども、舞い散る桜吹雪で頭から花びらを散らしておくれ。私のたった一つの楽しみだから、心ゆくまで桜の木にいつまでも居て楽しかった日が「あったのに」

そして川の水の音チヨローチヨローという音を聞きながら、この道を幾百里も歩いた。たきぎを背中にせおって歩いた日が「あったのに」。炭俵を作るために「カヤ」背負って北風が吹くと小さな体にはカヤの高さに風があおってくれてサア。ヨロリーヨロリーとやっところそ我が家にたどり着く。山道の冬は霜柱。朝早くざくざくと山道を歩いてたきぎを背負って下る道はつるつる。多くの人の歩き方によってすべりとかさないように歩む足の形と山道を幾百里と歩けた日が「あったのに」。

そして多くの人々が背中なたきぎが重いので休む所が形作られていた。休む場所には必ずチヨロチヨローと流れる水があった。手のひらですくってよく飲んだものだ。そして車イスであっち見、こっち見チヨローチヨローの音を何年も聞いて楽しい日が「あったのに」。コンクリートの間からつくしんぼうやレンゲ草の花、タンポポの花。黙って1人ぽつんと車イスと一緒に。タンポポの春には花が地面にくっついて綿みたいなこんな風が吹いているのになぜとばないのだろう、と不思議に思ったり、そして空を見つめて雲が柄が移り変わるのが楽しい日が「あったのに」。

今はベッドの上の人となった。ベッドに寝ている私をみつめるネコを見ておなかがすいたのかと餌をあげるとカーカー、バリーバリーと黙って聞いている私が居た。

カラーマン都会にいく；ルーチンパートⅢ カラーマン（とその女）

名古屋と東京に行ってきた。東京はともかく名古屋もいまや日本を代表する都会とっていいだろう。（名古屋ってむかしは偉大な田舎って雰囲気だったけど最近は違うらしいわね。）

名古屋。夜 8 時頃に空港から街中について、ネットで引いた地図を片手にホテルを探し

て歩く。あれえ、意外と人が少ないなあ、名古屋って広いからまあこんなものかもなあ。これじゃ天文館と一緒にくらいかそれよりも少ないくらいだぞ。やっぱり俺の中の都会の基準からは名古屋は外そう、などとどうでもいいことを勝手に決めて、目当てのホテルを見つけそのままチェックインした。

翌朝、駅まで行くのに地下街があることを発見。地下街に下りると、なんと地上の数倍の人手、都会の喧騒あり。なんだ、そういうことか、都会では地下を歩くんだった。だから、昨夜地上はまばらだったのか、と納得。納得しながらも、なんか不思議な気がしてきた。

何でわざわざこんな広い名古屋でモグラみたいに穴掘って街や通りを作らなければならないのだろうか。空気は悪いし、空調にお金もかかるだろうし、閉塞感があるし、地震がきたらこわいなあ。階段の昇り降りもしないといけないし。その点、地上なら空気も美味しいし星も見えるし、雨の日は傘もさせるし、景色もいいし、開放感があるのになあ。まあいずれにしろ都会人は地下に群がるとういことか。田舎モノは満天の星や、天の川を見上げながら歩いた方がずっといいと思った。伊佐の空気と星空は素晴らしい。(それしかないのもまた事実かもしれないけど、それはそれでいいのでしょうね)

東京：相変わらず人が多いが、多分江戸時代から人が多いということはこの都の特徴だただろうからなあ。単に人が多いだけでなく、政治家とか文化人とか、芸人とか俳優とかスポーツ選手とか殆どの有名人が東京に一極集中して住んでいるのもずっとそうだったのだろう。(あら、でも昔は京都が都だったし、大阪は商都だったりしてまだ今みたいに一極集中ではなかったのではないかしら。薩摩は薩摩の独自の文化があったりして、地方分権だったころは江戸は人は多くても今みたいではなかったと思うわ)

また当然、経済でも1人勝ちの様相で、行くたびに新しい高層ビルが建っている。正月明けすぐだったので、浅草寺に初詣に行ってみた。やはり想像通り歩くのもままならないほどの人出であった。結局、拝殿までずっと並んでいてお参りするまで相当の時間がかかりそうだったので途中で引き返してお参りはせず。田舎モノは待つことに慣れていないのだ。それにしても日本人は無宗教というのは間違いだと思う。こんなにも多くの人がお参りにくるのだから。(そうね。儀式は殆ど宗教がらみだものね。結婚式とかお葬式とか受験の合格祈願とか、安産祈願とか。交通安全祈願まであるし。意識はしてないけど、日常に宗教は密接にはいりこんでいるわね)

初詣を断念して帰ってきたホテルではいつもと違うベッドだし、どうも上手く眠れない。風呂もトイレもきれいだが、使いにくい。目覚まし時計も違う。部屋も狭い。高くてまずい朝食を下のレストランまで食べに行かねばならない。旅に出ることは日常からの脱出と

言う側面もあるのだろうが、逆に日常を見直す機会にもなる。ルーチンな日常生活が有り難いものを感じるから不思議だ。そうなんだ、平凡で変化の少ない日々も実は大切なことなのだと思います。(なんか人間って不思議ね。あれが無ければあれが欲しい。これじゃいやだ。なんて思っているけど実は一番大切なものは日常のルーチンの中にあったりするのよね。)

平凡な日常生活を恨んだり、平凡な人生を憎んだりするのは間違いなのだ。平凡、ルーチンの中にこそ人生はあるのだろう。平凡で健康で平和な生活こそ実はとても大切なものだろう。(そうだけど、多分、年齢によっても違うのじゃないかしら。若者は平凡な日常に満足して欲しくないなあ。青春時代は未知のものを求めることが大切なよ。少年よ大志を抱け。でも、あなたくらいの中年になったらもう夢は見ないほうがいいかもね)ふん。中年でも夢は見るだろうよ。それはさておき、ルーチンを嘆いていたけれど、半分義務みたいな旅行に出るとルーチンであることの有り難さが分かる。ルーチンであることは別の意味では安定感の確保だろう。安定した人生であることは大切なことだ。

日本人の終身雇用制度は、明日が不安定な生き馬の目を抜くような世界より、収入は少なくとも安定した生活を選べるから我々にはなじんでいた。情のない優勝劣敗の競争社会は疲れる。人を追い落とすことは目的ではない。より高収入を求めてすぐ転職するようなやり方はわれわれには馴染まないはずだが、なぜかそれ馴らされようとしている。コツコツとルーチンワークをこなすことは、かっこ悪いと思われたりもする。

退屈で変化のない毎日を憂うが、多分一日を大事にしないから日々に変化がないように感じるのだろう。毎日、天気も違うし、季節も違うし、確実に時間は流れており一瞬たりとも同じではない。日々は個性的で毎日違っている。そう思うとルーチンも悪くないなどと思ったりするのである。人は生まれて生きて死ぬだけである。(でも、毎日が平凡だと不満に思うのもまた人間だから、そんなに簡単には割り切れないなあ。生まれてきた意味が欲しいし、死ぬ意味も欲しいとあたしは思うわ。波乱万丈の人生って素敵そうなもの)

編集後記

また新しい年が始まりました。今年も抱負はどんなものでしょうか。私はとりあえずは健康でありたいとそれだけです。周辺で病気で倒れたり亡くなる人が増えてきました。健康であり続けることが簡単なようで難しい年齢になってきたということでしょう。皆様も御身お大切になさってくださいませ。(KT)
